



日頃の成果は……

# 目を引いた環境・福祉問題 竜丘地区文化祭

毎年この時期の恒例となつた、竜丘地区文化祭が十一月十四・十五日の二日間小学校において盛大に開催されました。

前日夕方からは、各委員会や出展団体による準備が夜遅くまで行なわれ、当日を待つだけになりました。

展示の部では、各分館による趣向を凝らした展示があり、駄科分館からはグループ活動作品展、長野原は、戸張(とばり)、算額(さんかく)などの金山神社所蔵品展、時又は中学生の写生や写真などによる時又再発見、桐林は私の作品・我家の一品と桐林の歴史・考古資料、上川路からは老人クラブの皆さんの木目込人形と上川路秘蔵の写真の展示がありました。



また、体育館では、竜丘の工業展が開催され、区内三十社余りから、代表的な製品が出品されましたが、高度技術の製品が多いのはびっくりしました。

また、グループ・機関・団体の展示コーナーでは、古墳を考える会の竜丘の古墳写真・資料などの展示や虫に学ぶ地域環境講座による、ほたるの研究成果など竜丘地区の特色ある財産の紹介がありました。

各種グループからは、日頃の学習の成果の油絵や、水墨画の展示があり、グループの皆さんの励みとなっているようです。

団体からは、日頃の活動の成果が報告されましたが、現在社会問題となっている環境問題や、高齢者等の福祉問題を取り上げた展示が目を見られました。

小学校児童や保育園児の作品展示では、自分の子供の作品を目の前にして成長を確認する父母の皆さんの姿が見られました。



発行所 飯田市竜丘公民館  
編集人 竜丘公民館広報委員会  
印刷所 龍共印刷株式会社  
上郷町黒田 22-5353

人口	6,466人
男子	3,141人
女子	3,325人
世帯数	1,844世帯
(4年12月末日現在)	

## 青年の主張

私は、今年成人式を迎えることとなり、少年から大人へと社会の見方も変わります。又、それにもとめない自分自身の考え方、人に対する見方、なども変わらなくてはならないと思います。

## 成人式を迎えて

小笠原 誠



私は高校を卒業して就職しましたので、今年二年目となりますが、まだまだ物の見方、考え方は未熟です。例えば、現在精密関係の仕事をして

だと思えます。その点、私は周りの先輩方にとっても恵まれていて、入社してからも仕事はもちろんです、社人としても一から親切に教えて頂いてとても感謝しております。

先日も先輩の一人が「若さ」とは何にも変えがたい「宝」であると言っていました。僕たちは今、その青春時代の真ただ中にあります。だから、この若さを

持ちの良さがたまりません。他にはドライブなども好きで、知らない道を友達と走ってみたいと思っています。これからは、思い付いたことは、可能な限り自分の力で実現していきたい、親に心配をかけない程度に青春しようと思っています。

学校週休二日制がスタートして、数ヶ月が過ぎました。実施前は公民館などこちらからで会議が持たれていました。スタートして心配していた程の問題は出ていないのではないのでしょうか。当の子供達は、のびのびと生きています。私達の子供の頃にあつたらうらやましい限りです。

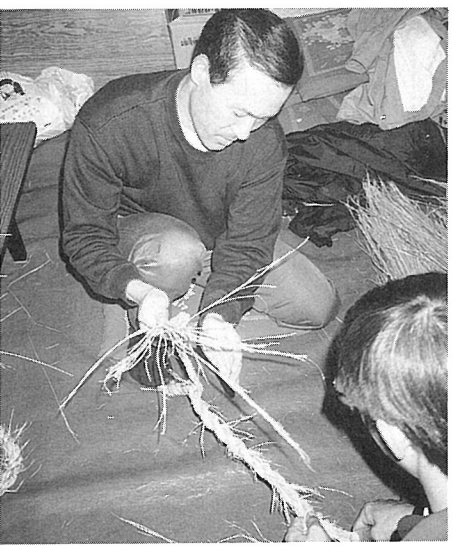
## “守ろう伝統” 時又壮年団松飾り作り

時又壮年団による年末恒例の松飾り作りが行なわれ、今回も好評を得ました。この松飾り作りは、以前

は各家庭ごとに一家の主が手作りで作っていたのが、時代の流れと共に作られなくなってしまうため、そ

の技術を守り、伝承するために始まったそうです。十二月六日、多勢の団員の参加のもとわらわらぐりから始まった作業は、土曜と日曜を除く毎晩、時又公民館の二階で、夜七時から十時過ぎまで団員それぞれ都合のつく日を選んで、交替で続けられました。

横綱、さがり、おやすの順に進められた作業も、十二月二十日、竜丘財産区などでの松採り、組立てと最後の作業が行なわれ、仕上がった松飾りから注文のあった時又地区内の各家庭へ一個千円で渡されました。



縄は左縄ですよ

今年度は全部で二百三十個組立てられました。また、時又駅や商工会館などの公共の施設には無償で配られました。

年末多忙な中での作業だけに時間のやりくりがとて大変なようですが、松飾り作りの伝承という大きな役目と共に、団員相互のコミュニケーションの場としての壮年団活動の大切な一事業をこれからも続けていってほしいものです。

## 館報縮刷版 刊行事業を終えて

刊行委員長・竜丘自治会長 伊原真吾

「事に臨むに三の難(かた)きあり。能(よ)く見たり。能く行なう。二なり。当に行なうべくんば、必ず果決す三なり。」「張詠」これ、すわなち事を行なうに当たっての熟慮断行をいっているのであるが、この度の館報縮刷版「たつおか」発刊事業は、この三つの「難き」を見事に越えた

すばらしい人の和の成果で、編集、刊行にご協力をいただきました。ただいまの方々ははじめ、生ける昭和史たる縮刷版「たつおか」を郷土の遺産として、暖かい気持ちで購読くださる地域の方々に心から御礼申し上げます。お陰様で予定部数千冊を若干の寄贈分を除き完売し、

かつ些少なから残余金を公民館運営の資として贈呈できたことをご報告致します。県下有数の埋蔵文化遺産を有する、わが父祖の地竜丘も、時の流れと時代の潮流の中に変貌はめまぐるしさを加えています。扉に掲載された航空写真にさえ、その変化を観ることができ

ます。よりよき二十一世紀の竜丘の住環境をめざす糧として、先人のいう「家を富ますに良田を買おうを用いず、書中自ら千鐘(せんしよ)の粟(ぞく)あり」(真宗皇帝御学文)の千金の書として座右におき、愛顧されんことを再度お願いし、刊行を終えた所感と致します。

「小学校ですがお願いしました。」と集めて行きました。ただ予定の金額が集まったり、みんなやっただけという結果さえ出せば良いのでしょうか。

廃品回収は一つの例ですが、他にもいろいろあるはず。もっと子供達の自主性を尊重して、アイデアを出したり、みんなで苦しむ活動に期待してみませんか。

## ヤブ呷

学校週休二日制がスタートして、数ヶ月が過ぎました。実施前は公民館などこちらからで会議が持たれていました。スタートして心配していた程の問題は出ていないのではないのでしょうか。当の子供達は、のびのびと生きています。私達の子供の頃にあつたらうらやましい限りです。

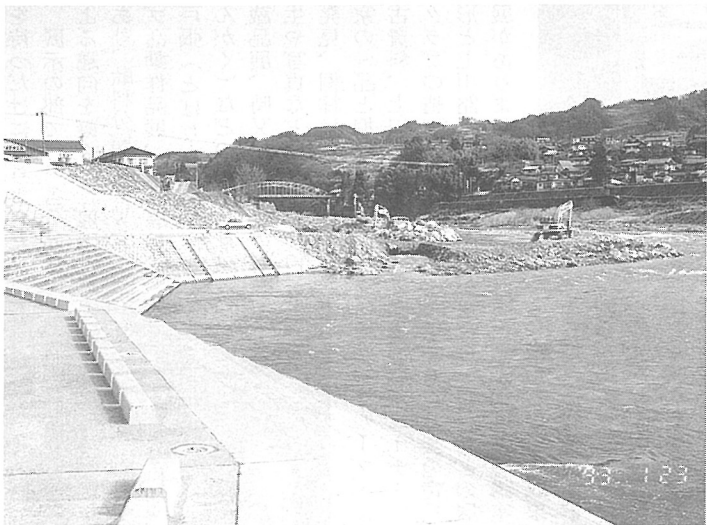


# 二十一世紀の竜丘は？

## —大詰めになった基本構想—

二十一世紀を展望する中で、より住み易く活力のある竜丘地区を指し、その方向性を求めるべく始まった「竜丘地区基本構想、基本計画策定事業」も回を重ね、いよいよ大詰めを迎えました。

平成元年度より取り組んできた、竜丘地区基本構想、基本計画策定事業も、今年度で四年目を迎えました。本年度策定本部会、各地区協議会、むとす竜丘のそれぞれが活動から現状把握がなされ、洗い出された課題を整理し五つの専門部会が結成されました。より多くの人の声を拾うべく行なった住民アンケートも、大変な時間と労力を費やすうちに終了し、現在システムテーマを設け、具体的にその重要テーマと問題点及び将来へ



進む新川河口の改修工事

重要テーマ(きれいな川づくり)では、下水道の整備、産業排水、川の構造(浄化能力の低下)などの課題があり、将来構想としては、下水道の整備早期実現に向け竜丘全体研究委員会の発足や、モデル河川の設定による住民の意識高揚などがあります。

(活性化を図る誘致問題)では、工業誘致の是非、治水対策土取り場の利用方法などの課題に、環境に優しい、考える、活かせる未来産業として、具体的には温水を利用した産業や施設、迷惑施設の積極的な受け入れなどの将来構想が上げられます。その他(花と緑マスタープランづくり)(周辺地域との連携問題)(治水対策)などが重要テーマとされています。

システムテーマⅡ「土地利用」では、桐林上段開発のあり方についてでは、工業用地(市基本構想)の是非や現有企業との共存、ギフトチョウの保護及び山林、農用地の見直しと活用など様々な課題に対し、自然保護を最優先した自然学習ゾーン、遊歩道など公園化及びレットゴルフ場の建設などの将来構想が上げられています。

水対策)などが重要テーマとされています。システムテーマⅡ「土地利用」では、桐林上段開発のあり方やギフトチョウ、古墳公園化構想、竜丘全体の宅地化問題や農業の将来像などが上げられます。

## 鉛筆について

今回は、駄科の平栗あい子さんのです。

平栗さんは現在「家の光」の講師をしており、県内はもとより全国各地からの講演依頼にお忙しいなかをお訪ねしました。

昨年十二月二日に長年の功労に対し長野県栄養改善賞を受賞されました。これは二十年以上、栄養改善の普及と実践活動に務め、顕著な功績が認められた方に贈られる賞です。

昭和三十六年、長野県は全国に先駆け生活指導員を

導入、その年に下條村農協に生活指導員として勤務されて以来、三十年以上一貫して、栄養改善事業や食生活改善に、尽力されており、「今やらねばいつできる、わしがやらねば誰がやる」

## 明るい生活は食の充実から



元生活指導員「家の光」講師 駄科 平栗あい子さん

この言葉を胸に「長い間指導員をしてきただけ」と話される平栗さん。

生活指導員の役割は、農村の「衣・食・住」全般にわたっての健康管理、食生活の改善を最後に退職した平栗さん。

「一日一日を大切に」をスローガンに地域住民との触れ合いを深めています。

「昔は特にタンパク質については欧米諸国に追いつけ追い越せだったが、最近では毎日がお年取りの様な食事に困られ栄養のバランスが崩れタンパク質過多になっている」

「明るい生活は食の充実から」と張り切る平栗さん益々の御活躍を。

## 田んぼの綱引き大賑わい

### —上川路まつり—

去る十一月三日に第二回上川路まつりが行われました。昨年の上川路まつりは地区民の芸能発表を中心とした祭りでした。今年の祭りはさらに地区内の交流を進めようと、昨年まで八月に行われていた体育祭を祭りの中に組み込んで盛大に行われました。

まず午前九時より体育祭として「綱引き大会」が行われました。これは各組合から男女各四人ずつでチームを作り、十チームでトーナメント形式

で行われました。また小学生のチームも四チームで、みんないっしょけんめい綱を引っ張っていました。観客も多く、自分の組合の出番になると大きな声援が選手たちに送られていました。会場が田んぼという

ことで足元が悪く、滑ってころんだり、綱をもったまま引きずられていてしまふという普通の綱引きでは起こらないような場面も見られ笑いが起る一幕もあり、楽しい時間となりました。

綱引き大会が終わる食卓に拍手喝采が起こっていました。

屋敷後、公民館の中心に移り芸能発表が行われました。発表は日ごろ公民館で活動している民謡クラブ・大正琴のクラブ・詩吟のクラブといった団体の方々の発表と常会ごとで発表が行われました。

四つの常会の発表では唄や仮装をしての踊りが発表されました。また睦会ではハンドベルの演奏と子供達もまざって踊りを発表しました。観客からは出し物が終わるごとに拍手喝采が起こっていました。

子供から大人まで地区民一同楽しい秋の一日となりました。

現在の強さの原因は、まず基本を中心にし、更に毎回試合をすること、礼を大切にすること、そして最も大きいのは保護者会のバックアップだそうです。

十五周年を迎えた竜丘柔道クラブの益々の活躍を期待します。

十五周年を迎え、全日本柔道連盟副会長・講道館九段・南島清久師範のもと、指導者七名、会員五十名で毎週土曜日に竜丘柔道場で稽古に励み、飯田市柔道大会を始め、年間八回の市、南信、県などの大会全てに優勝経験を持ち、県下でも屈指のクラブです。

## 「おひさま文庫」の活用を

### —三百冊の新図書購入—

竜丘公民館の奥の一室にある「竜丘図書館」。ここは幼児向けから大人向けまで数千冊の本が置かれています。

まだまだ、知らない方も多く利用者は少なめですが、ここには毎年数百冊の新刊が購入されています。

今年も、新たに二百四冊の新しい図書が購入されました。子供向けの漫画も多く入り、「おもひでぼろぼろ」「紅の豚」といった、大人でもちょっと読んでみようかと思う本も沢山入っています。

他にも最近出版されたばかりの「毛利衛ふわーと宇宙へ」「紀子さまの育児日記」など新出版の図書も盛り沢山です。個人で購入するにはちょっと考えてしまふような図書でも、ここへ来れば簡単に借りる事が出来ます。

普段あまり本を読まない方でも、読んでみようかと思うような図書が数多く購入されましたので、是非一度一人の時でも御家族そろってでも気軽に立ち寄り下さい。

この図書館は、「おひさまぶんこ」という名で呼ばれ、開館日は毎週土曜日の午後一時～四時までの間で、手続きもいたって簡単です。一度御利用下さい。

## 強さの秘密は基本です

### —竜丘柔道クラブ十五周年を迎えて—

竜丘柔道クラブ(飯伊地区柔道連盟竜丘支部)が、昨年十五周年を迎え、去る十二月六日柔道場で記念式典、記念試合を行いました。柔道クラブは、現在、全日本柔道連盟副会長・講道館九段・南島清久師範のもと、指導者七名、会員五十名で毎週土曜日に竜丘柔道場で稽古に励み、飯田市柔道大会を始め、年間八回の市、南信、県などの大会全てに優勝経験を持ち、県下でも屈指のクラブです。

十五周年にあたり、竜丘支部長、講道館五段の関島政彦さん、保護者会長の藤田稔さんに取材させていただきました。当時の竜丘駐在、大沢兼光さんが提唱され発足したこと、道場の量もなく、発足三年後から五年程かけ畳百二十帖を半分は自分達の費用で揃えたことなど苦

場、壮年団と睦会により準備された手作りの豚汁とおにぎりがお祭りの参加者にふるまわれました。

屋敷後、公民館の中心に移り芸能発表が行われました。発表は日ごろ公民館で活動している民謡クラブ・大正琴のクラブ・詩吟のクラブといった団体の方々の発表と常会ごとで発表が行われました。

四つの常会の発表では唄や仮装をしての踊りが発表されました。また睦会ではハンドベルの演奏と子供達もまざって踊りを発表しました。観客からは出し物が終わるごとに拍手喝采が起こっていました。

子供から大人まで地区民一同楽しい秋の一日となりました。

